

# めだかの学校だより

平成 17 年 8 月 1 日  
第 49 号

学舎：東久留女木新田観音山  
「みどりの郷キャンプ場」内  
事務局：浜松市引佐町  
東久留女木 472-111  
TEL053-545-0381

## 校長訓話

第四十九回校長 大谷 洋介

八年前、片岡さんに紹介していただき、入りました。私の育った企業文化と似た、メダカに惚れてしまいました。

何かやれる？。何をやってくれる？。自筆のお便り……。全員に同じこと言っているんだ！と気がついて！早や何年かな。最初は、ブラジルのこと話そうか、刀の話にしようかと気にしていましたが、話のうまい人面白い話をする人が楽しみになりました。それを最近「給食係」を買って出て、つまみ食いを楽しむことにしています。すると、その時が突然やって来ました。私の名前が



呼ばれたのです。「エツ、ホント」八年目の快拳？！、と同時に「訓話」。ガラではないけど……なあ！。私は先祖に恵まれたせいか、名前と云い、頭の毛といい、実際の年齢よりは多少、若く見られるようです。そんな私がこの所、急に歳を感じるようになりました。それは、周りの人が欠けるのが多くなって来

たからです。この前、話した人が、もう居ない、会いたくても会えないんだと思う時、次は自分の番になってもおかしくないんだと思うようになりました。体の変化、特に頭の中身の変化です。今までの基準がづれて来ています。瞬間湯沸し器が、まてよ？、と少し間がとれるようになった気がします。ソントククの差がなくなつたような気がします。

人は変わるもの、変化するもの、先入観で見たり、レッテルを貼ったり、差別したりはダメだと云われて来ました。今考えていることは、価値観についてです。会社人間の時は、ムリ、ムダ、ムラ、量、質、コストが仕事でした。しかし今は、いかに楽しく毎日が過ごせるかです。

先輩が言いました。「いいかげん」がいいよ！。

二つの言い方があるようです。貴方はどっち？私も……。

## めだかの学校伝言板

——第 49 回めだかの学校を開校するので出席しなさい。開校日／平成 17 年 9 月 2 日（金）6:20PM より

校長／大谷洋介

教頭／西川裕子

用務員／小野田宗弘

給食係／若澤明弘・岡本卓也・古橋正浩・古田賢二郎

榊原淑友・大谷香代子・鈴木智香枝

藤野はつえ・西川裕子・荒木順子・牧野久子

渡辺三ツ子（チーフ）

<学舎> 静岡県浜松市引佐町東久留女木観音山

観音山みどりの郷キャンプ場

TEL なし

受付／朝長龍太・宮本望・藤田吉恭  
齋藤昭（後見人）

<時間割> ～去りゆく夏を惜しみながら～

—古き良き時代へタイムスリップ?—

・音楽特別授業（1 時限のみに 1 時間）

「池ちゃんの”ミュージック・フライパン料理”盛り盛り」

☆今回が、13 期第 1 回目の開校日のため

「建学の精神（こころ）」の唱和があります。

※給食の時間「お月見御膳」お楽しみに…

# 泳ぎ回るめだかたち

## ■「かげろう」を追いかけるメダカ

五月の末に、深谷、中川、溝口メダカに、武史メダカ御夫妻と、奈良県五條市に行ってきた。武史メダカ以外は、一昨年の「かげろう座」以来、二度目である。武史メダカは、今年二月に開かれた「全国地域づくり団体研修交流会」奈良県五條市」ではじめて五條市を訪れているが、「どうしても「かげろう座」のときにもう一度訪ねたい。」とお誘いがあつた。「どうせ行くなら」と、例によつていつものメンバーで蕎麦打ち道具一式を積み込んでの遠足となつたのである。

「かげろう座」とは、五條市で一年に一日だけ開かれる大フリーマーケット大会のことである。五條市は、伊勢街道・西熊野街道・紀州街道などの五つの街道が交差し、かつては吉野川を行き交う水運の中継地としても栄えた交易の町である。その古い町並みが残る街道いっばいに、平成五年から毎年開かれ、年々盛大になってきている。今年には約四八〇店が出店し、五万人以上が訪れている。

その名前の由来である「かげろう」(蜻蛉)は昆虫の仲間で、成虫の寿命は数時間から長くても一週間で、短命で「はかないもの」の例えにされている。「陽炎」(かげろう)のゆらめきを思わせる飛び方をすると、ところからその名が付いたといわれている。「かげろう」には、「五條蜻蛉」と名付けられ五條市の吉野川近辺にしか生息しない種類があるそうである。こうして「かげろう」のように一年に一度、一日だけ開かれるこの催しも、「かげろう座」と呼ばれている。また、「かげろう」

は、トンボの古名「蜻蛉」でもあり、常に前向きに飛び、「かげろう」は、「陽炎」でもあり、大気や地面が熱せられて起る現象で、常に前向き姿勢で熱い心をもつて取り組んでいくという心意気も、その名前に込められているようである。

その「かげろう座」を運営している五條市の元気集団「新町塾」の皆さんと、スタッフだけの前夜祭として、古い町並みの真ん中の古い町屋を再生した「まちなみ伝承館」で蕎麦を肴に交流会は開いた。翌日に大イベントを控えながら、二次会まで付き合ってくれて、お開きになったのは、十一時過ぎであった。

翌日は、お目当ての「かげろう座」見物をつつぷりとして来た。「新町塾」など五條地域のまちづくりで活躍されている林業家の櫻本さんや歯科医の釜田さんがフリーマーケットを案内してくれた。医者の御主人が開業のため奈良市に引っ越された大沼さんは、医院のスタッフとともに泊りがけで来て、付き合ってくれた。屋頂になると、人込みをかき分けながら前に進むといった状態の中で、骨董屋に足を止めて値踏みをしたり、古道具屋では子供の頃の暮らしを思い出したりしながら歩いた。途中では、巧みな口上に乗せられて「唐辛子」を買ったり、いくつかの街角コンサートに耳を傾けた。こうして、五條市の皆さんと気の置けない6匹のメダカのお陰で、単なる観光旅行では味わえない旅の面白さを、わずか一日だけの「かげろう座歩き」で味わうことができた。

奈良県五條市までは少し遠過ぎるが、かつて行ったように、近くの人や催しを訪ねる「メダカの学校の遠足」にまた行きましょう。私たちの三遠南信地域と周辺にも、何度も訪ねたくなるおもしろ人間や病み付きになる秘密の場所がいっぱ

いあります。暑さや寒さに負けずに出かけましょう。

(なんでもあり農園小作人の松)

## ■三遠南信交流の広場 三 浜名湖ガーデンパーク

『三遠南信アミ』の発行から約5年、その法人設立から約半年、ステップを一つ上げたいという思いから、浜名湖ガーデンパーク(花博跡地)が県立公園として6月にオープンしたのを機会に、7月9日(土)10日(日)三遠南信情報発信イベントを行いました。

三遠南信の歴史や三遠南信道の整備状況、『合唱団カネット』のパネル展示、クラフトやMOOグループ等の情報発信コーナー、民俗芸能のビデオ鑑賞、鳳来町のこども太鼓と拳法会の競演、天竜の本島慎也さんのオカリナ演奏、模擬店での食文化情報発信など。

三遠南信クイズアンケートに一般来園者約千名が参加し、多くの一般市民に情報提供できたことは有意義だったと思います。

しかし、準備期間が短かったために、天龍村、南信濃村、新城市、東栄町、森町、浜松市天竜、引佐、細江・多くのメダカの同窓生たちにご協力を依頼、ご心配をおかけしたイベント実行でした。この場を借りてお礼とお詫び申し上げます。

ところで、浜名湖ガーデンパークは、イベント内容の規制がありますが、使用料も安く、情報発信拠点として十分活用できそうです。規制がゆるやかな、屋外ステージは音響設備もあり、使用料一日八千円と格安、芸達者揃いのメダカの学校でも『のど自慢大会』か『演芸大会』でもやったら楽しそうです。いかがでしょう。

11月には、浜松市合併記念イベントとしてエントリリーしている『らぶらぶ浜松親子ふれあいワーキングピクニック』(MOO)法人就業支援ネットワーク静岡支部：代表(照井)を予定。ユニークなアイデアや企画参加を募集中です。またまた、助っ人要請を・こめんなさい、ほんとに懲りない照井メダカです。

(照井易子メダカ)

## ■都田川水源まつり＆菜の花プロジェクト

「新浜松市」誕生記念「県民の日」にも協賛して、8月20日(土)・21日(日)の2日間、学舎近くの都田川ダム湖で開催する「星空コンサート」(前夜祭・岸義紘サクソフォンコンサート)と「都田川水源まつり」メダカ生を中心とした実行委員会だが、釣り愛好者や、野鳥の会・都田川漁業組合・久留女木の棚田の会・里山ネット三ヶ日など、他団体の人たちとも一緒になって実行委員会を結成してやっている。実行委員長は永田清元メダカ、副実行委員長は溝口久メダカ。三つの探検隊の都田川源流探検隊の隊長は鈴木計芳メダカ。久留女木の棚田と水生生物探検隊や都田川ダム湖探検隊にもメダカ生は加わる。竹の筏づくりは服部守孝メダカを班長に伊藤英雄メダカや徳増兼弘メダカ。夏休みのお手伝いコーナーは、加茂光廣メダカ・斉藤昭メダカ・鈴木真弓メダカから。グルメの手打ちそばは松本芳廣メダカ・ぐるぐるウインナーは佐原剛メダカなどと言った具合。本番スタッフには多くのメダカ生が加わる。20日の前夜祭「岸義紘サクソフォンコンサート」は、あいらふいなさ湖の会の石野省三メダカと榊原幸雄メダカ。渡辺ミツ子メダカや牧野久子メダカからも加わる。加藤修一メダカ作成のチラシは、旧引佐

郡の三ヶ日・細江・引佐3町をはじめ、旧浜松市の三方原小・都田小・滝沢小・旧浜北市の大平小などの小中学校へ石野省メダカが配布。旧浜松市の生涯学習センターや公民館でも配布。その他実行委員のメダカ生などがチラシを配って宣伝している。楽しく遊んで知識も高めて汗をかき「自然の楽校」。まさにメダカ生の課外授業でもある。

「いなさ湖」の野外ステージ周辺を菜の花で飾る「菜の花プロジェクト」もこれからはじまる。植生調査から草刈り・土づくり・タネ播き、心くばり、菜の花コンサート、タネ採りなど、ボランティアを募集して行います。多くの生徒の積極的参加を！「小さな池から川へ泳ぎ出すメダカとなって」。参照にチラシを同封します。ハガキにて申込を。(8月16日締め)。(事務局・バラメダカ)

### ◇人・ひと・ヒト…だより

○豊田市の堀田正子メダカ。養豚業のたわら書いたエッセイ集『万灯に魚がされて』を出版。寄贈していただきました。身の周りにおける日常を綴った心豊かなエッセイ集です。

○掛川市の水野忠義メダカ。掛川市にある(社)大日本報徳社の役員になって多忙と。報徳社の社長で元掛川市長の榎村純一氏の、『市長の寸感千字』(141編)掛川市発行)を送ってきてくれました。生涯学習まちづくりを毎月千字で綴ったものです。水野メダカが役員の大日本報徳社、幕末から明治に至る日本の近代黎明期、困窮にあえぐ農民の救済を目指した、二宮尊徳さんの報徳運動。教えの3つの柱「勤勉」「分度」「推譲」。『今まぐ木や後の大木ぞ』。今も脈々と。お問合せ

は水野メダカに。

○磐田市の奥田教生メダカ、一関五感の会を主催している。毎月一回例会を開いて7月24日で193回。これまた凄いですね。講師や会員にメダカ生の名前が見えます。一度参加してみたいかがでしょう。『生きた人間と出会う』魅力ある会ですよ。問い合わせは(053・583・0657)

○浜松市二俣町の本島慎一郎メダカ。母が『愛知地球博』に応募した『平和の叡智』(愛・地球博に寄せて)本島愛子著の本が出来たと持参。「是非みなさんに紹介して」と。今回の本は詩集だが、短歌、詩、小説までも書いています。定価1260円、出版元はサンジヨルディ。(お問合せは本島慎一郎メダカまたは事務局バラまで)

○掛川市の萩田博メダカ。新「浜松市」誕生を記念して、7月2・3日、水窪総合事務所から浜松市役所まで南北160キロ約30時間かけて走破。「マラソンとピクニック」を合わせて『マラニック』、造語までしてマラソン人生を楽しんでいる。次回はいつ、どこで、お知らせください。

○浜松市細江町の松田不秋メダカ。こちらも新「浜松市」を記念して、浜松市引佐町龍潭寺で7月3日開催された歴史講演会の講師に。武藤住職の「徳川四天王井伊直政と徳川家康」の講演を引き継いで、長野県伊那地区の名族、知久氏と家康とかかわりについて語る。三遠南信地域の文化を研究している松田メダカ、またお聞きしたいですね。

○長野県南信濃村の川手志穂メダカ。近

頃連絡が途絶えていたと思っていたら、『遠山で、二人一緒に』の絵入りハガキが届く。なんと地元の鈴木理さんと結婚したと。信州遠山谷で、猪肉・鹿肉・遠山ジギス「肉の鈴木屋」のおかみさん。ご用の方は、(0260・34・2222)へお申し付けください。お幸せにね。  
※もつともつと伝えたいのですが今回はこれまで。皆さんの活動・個人的なこと。どんどんお知らせください。

### ◆学舎だより

●第48回の「めだかの学校」開校日を前に、学舎周りの草刈りをしました。参加者は伊藤英雄メダカ、小野田宗弘メダカ、牧野久子メダカ、途中から参加の鈴木真弓メダカ。草刈りは大変でした。ありがとうございました。

### ■学舎の草刈り

●第49回は9月2日、屋外での給食。どなたか時間をつくって草刈りを。手をあげて！8月28日(日)9時から行います。ご連絡ください。(053・545・0381事務局まで)

\*\*\*\*\*

「注意」浜松市宮口(旧浜北市)方面からの道路、浜北砕石場付近の道路拡幅工事のため通行止となります。採石場手前より迂回路はありますが、一部山の中を通りますのでご注意ください。浜北採石場手前左折橋を渡る→右折山の道(舗装道路)→くるめき橋→右折広い道路へ→森下商店(いつもの道路へ)→左折30メートルほどで学舎です。国道257方面からは変わりません。

### ◆メダカ春秋

●「学遊林」から「メッセージ運動」へ

昭和四十二年、三年頃、我が家と隣接する中学校の校長先生から「最近の子ども達は山へ行かないから樹木の名前も知らない。東京オリンピック以来テレビの普及で、山村の子ども達も外で遊ばなくなった」と言う話を聞いた。併設する小学校の裏山およそ一ヘクタールの広葉樹林の開放・提供を申し出た。早速PTA総出で、林間歩道を作ったり、樹名板を取り付けたり、二夏(ふたなつ)かけて整備した。名付けて「学遊林」。

以来子供たちは、ヒミツ基地を作ったり、古いホースを持ってきてターザンごっこをしたり、ビニール袋をお尻に敷いて斜面を滑ったり。  
実習体験に関心のある先生から「椎茸づくりをしたい」と言うので、原木を提供。種駒は農協から買ってきて植菌した。二年目の秋には椎茸が採れ出して給食用に…。

最近、再び林間歩道の整備をしたり、テールベンチを設置。屋外授業に使われている。林内の一部ヒノキ林での間伐体験。鋸を引く時の音と汗を流した喜びと快感、木が倒れる時の迫力。教室では味合うことの出来ない体験と勉強で子供たちは大喜び。学遊林は文字通り遊び学ぶ森林として生かされている。

昭和五十九年から田辺営林署と木工教室を始めて今年で22回目。夏休みの工作の宿題のお手伝い。竜神と田辺で開催。何よりも参加した子ども達の父母から喜ばれている。そんな経緯を経て、平成六年から県の林研グループ仲間始めた「山のおじさんの出前授業・林業教室」。その年八校が年々増えて最近は何年八十校にも。去年までおよそ六百校三万人余り。「森林からのメッセージ運動」は今年も県内の各地で開かれている。  
(紀州木の国 真砂典明メダカ)

☆「めだかの学校」全国へ発信!。(財)地域活性化センター発行の、明日をひらく地域活性化のための情報誌「地域づくり」8月号で、「めだかの学校」が地域づくり団体探訪コーナーで紹介されている。

この地域づくり情報誌は、全国の自治体や各県の地域づくり団体協議会に登録されている団体などに配布。内容的には硬派で、毎月「地域交通システム」「子どもが元気な町」「防災まちづくり」「食の安全」などの特集テーマを決めて、各地域で取り組んでいる地域活動を取り上げている。2005年4月号では特集「地域づくり総務大臣表彰」で、関京子メダカ組合長の長野県天龍村・天龍村餅子生産組合が掲載されている。

また各県協議会などと共催して行う「地域づくり団体全国研修交流会」には、メダカ生も何人か参加。今年2月の奈良大会には鈴木武史メダカと秋田の奈良努メダカが参加。次回は、18年2月10日(金)11日(土)の2日間、沖縄で開催予定。楽しいですよ。

☆お粗末なバラメダカ。浜松市引佐町の榎原幸雄メダカ、なんと左手親指をネズミに咬まれたという。外のゴミ袋や小屋のジャガイモをかじったり、あちらこちらに「出始めたなイタツラネズミ」と思っていたら、2階のペランダにフン。その夜のこの、寝ている耳もとをコトコトカサカサの音。電気をつけるとネズミ。いやア、マイツタね。翌朝、台所の物の位置が変わった。物をかじった跡。粘着ネズミ取りをセット。夜八時ごろセットが動いてネズミがかかったような跡。もしかしたら...と風呂からあがって厨房に行くと、カタツと音がしたと思ったら、足にフライ返しをつけたネズミが横切って逃げていく。「この〜」と追いかけて回して洗面所へ追い込んだ。戸も締めて、「いた〜」。ハタキの柄でつつくと、あわてて洗たく籠へ。タオルを左手にむんずと掴まえる。手のひらから5、6cm頭を出

してチウチウチウチウ。可愛い目をしてる。お仕置きをして逃がしてやろうと思つたら、頭を曲げてガブツ。イテテテテ!歯が食い込んでとれない。「もう赦さん!!」と粘着ネズミ取りにタオルごと押し込んでギュー。傷口は水で洗い、竹酢液と神原淑友メダカ推せんのお塩で洗浄。いやア、効果抜群。菌型は残っているが、傷口はきれいになった。「窮鼠猫を咬む」の体験でした。

◆事務局だより

暑中お見舞い申し上げます。何月か前の新聞に、地球温暖化が今のままの状態が続けば2080年には集中豪雨や干ばつなどで、洪水や山火事、生態系まで害が及んで、自然災害だけでもばく大な被害が出る、と警告されています。地球温暖化防止に今自分から出来ることから「電気をこまめに消す」「早寝早起」「電気をこまめに消すだけで、なんと一カ月の電気代が2、3千円も少なくなった。早寝早起も健康にいい。自分出来ることから実行しよう。」

扱って48回の「めだかの学校」は6月3日。テーマは「笑って笑って善玉菌増やそう!」まさにピツタりの三役。八木正子校長の訓話「江戸小ばなし」から入って笑わせ、時にはチクリと、まさに笑話。藤田潤吉教頭「私はチンドンだけではないうよ」と、これまた小ばなしを交えて進行。徳増兼弘代理用務員は例のとほけでからまるという具合。一時間目の土屋誠一先生の地学「ストーンと化けて石地蔵」は、石ころ地蔵を創るまでの過程の話や思いを語る。終わったあとの土屋先生「石の話ばかりで硬すぎたかなア!」なんてつぶやいていました。二時間目の家庭科「アートの入選賞の技、東京までいっちゃた」の鈴木真弓先生。ビーズと糸を使っての突技授業。ビーズに糸を通しては結んで...左右の繰り返し。あちらこちらで「アレ、どっちだっけ!」の声しきり。まさに高齢者の指先と脳の活性化授業で

した。お待ち兼ねの給食は、じゃがいもの煮物などでバックはいっぱい。ごはんはどんぶりに。私語飲食全て禁止の次回3役発表。49回の校長は大谷洋介、教頭は西川裕子、用務員は小野田宗弘。校長は大谷メダカは地味な縁の下の力持ちタイプ。そんな校長を支えるのは前ギヤギヤの西川裕子メダカ。用務員は前回指名を受けたが仕事の関係でできなかった小野田宗弘メダカ。罰でも一度だつて給食当番に新人5人が手をあげた。授業前に給食係を手伝ってくれて、つまみ食いの醍醐味を味わったらしい。でも嬉しいね。お別れは、教頭のサククスで、校長のリードよろしく踊って歌って...いやア、疲れましたが、楽しかったですね。

第49回の「めだかの学校」の職員会議を6月22日、豊岡元氣村「味里」で開く。期の初めの授業は、特別教室のような形式で行っている。今回は音楽で行こう」ということに。音楽を得意とする生徒をピックアップする。池田誠二郎メダカは年代ものの蓄音機とレコード盤をもっている。「秋だから祭りばやし」の笛は「楽器演奏は誰れと誰れ」と。最終的には「レコード鑑賞と祭りばやし」になる。それが「給食当番の人も授業を受けられるように給食はもっと簡単にしたら...」先生の指名はもっとみんなができるように公平にしてみたい...などなど、いろいろの意見がとび出して授業の内容は概略しが決まらず、結局は事務局預りに。先ずは池田誠二郎メダカと話す。「レコード盤に面白いものがいっぱいある。蓄音機も分解して...ならば他は考えず、一時間の特別授業に決める。テーマは「音楽特別授業・古き良き時代へタイムスリップ?」。科目は音楽「池ちゃんのミュージックフライパン料理」盛り盛り!に。いやはや「いいのかなア」と思いつながら...とにかく楽しい授業に。

◆今回もお礼とお詫びを!  
もはや慢性化の発行遅れ。叱咤するも、

こうも原稿がまとめられないのはどうしたことが、困ったもの。そんな私を支え、お手伝いしていただきました石野省三メダカ、伊藤英雄メダカ、松本芳廣メダカ、本島慎一郎メダカ、鈴木武史メダカ、照井易子メダカ、エヌビーネットの伊藤多恵子さん、ありがとうございます。感謝です。感謝です。

■第十三期の「めだかの学校」の継続手続きをしています。

第十三期は平成17年9月1日から平成18年8月31日までです。継続希望者でまだ手続きを済ませていない生徒は8月31日が締切りですので、手続きを早めに済ませてください。継続手続きがなされていないと名簿からはずれ自動退学となります。ご注意ください。入学希望者がいましたら事務局までご連絡ください。本人に申込書と資料を送ります。(事務局・榎原幸雄メダカ)

◆めだかのたよりの原稿を!

情報ください。地域のイベント、あなたの活動を!待ってまゐります。次回発行日は11月1日です。10月20日までに郵便かFAXで、事務局(Fax 053-545-0381)、メールの方は、照井易子あて Eメール/teru@anet.co.jp メール送信の方は、割付の関係もありますので、事務局に「一報を!」よろしくお願ひします。



めだかの学校事務局  
〒431-2531  
静岡県浜松市引佐町東久留  
留女木472-1111  
「リンデンバウム」内 榎原幸雄

※学舎「みどりの郷」は何もありません。連絡・お問い合わせは「事務局」まで。